

人生に寄り添える仕事



長田篤史

TAKE FREE
Vol.105

おやベローカルかわら版

発行：ELABO（イーラボ）
印刷：ヤマシナ印刷株式会社

のばなピアノ教室の平田さんからご紹介いただいた長田篤史さん。小矢部で美容院「ザ・ヘア・オッズ」を経営している。平田さんの息子さんが出場した車椅子バスケットボールの大会を応援してくれているということがあった。「たまたまご縁があった、小矢部市のさかい理容室で18歳から修行させていたんだ。」

さかい理容室を辞めたのは2年前。足掛け22年間お世話になったことになる。「自分でお店をやろうと考えた時、自分の地元である伏木も考えただけ、幼稚園から知っているお客さんが学校の先生になってい人もいる。そう考えると、この子たちを今後も見守り続ける場所。地元よりも小矢部の方が長いので、ここに決めました。」長田さんの父親は、小学校4年生の時に亡くなり、母親に育てられた。床屋さんになろうと思っただけ、中学生の時、「確固とした理由はないんだけど…、当時色々思った時に何かあったんでしょっつね笑」

「高校は行きたくなかったが、お袋が子ども3人を育てるために寝る間も惜しんで働いていて…。そんなお袋が自分のことを心配して紹介してくれたのがとび職のバイト。とび職の社長にこれからは働いてくれて言われたんやけど、やっぱり髪の毛切る仕事が好きだった。」「親父が病気になるまで、小学校2年から3年くらいから病院に見舞いに行くようになった。おぼろげながら覚えていた親父との思い出が、床屋さんに連れていってもらったことだったのかなって。」「何気ない理由だったと思う。そして、ここまで来ちゃったって感じ。」

「この仕事の面白いことは、どんなにやんちゃになった人でも、子どもの頃から知ってあるから、「いやそんなことないよ」って思える瞬間かな。」床屋さんにきたら、みんな平等。町の人と一緒に成長できる喜びがある。「オープンして1年4ヶ月。最初は不安だったけど…、さかい理容室あつての僕だと感じます。ありがたいです。」



「この仕事をやってよかったのは、出会い。お客様になってもらえれば、ずっと人生に寄り添って見ていくことができる。」「お店を出すのは、大きな賭けだった。やらんと諦めるか、やって失敗するか…。今はやってよかったと思う。」失敗するか、どうかは、やらない限り永遠に分らない。

「親父が病気になるまで、小学校2年から3年くらいから病院に見舞いに行くようになった。おぼろげながら覚えていた親父との思い出が、床屋さんに連れていってもらったことだったのかなって。」

■長田 篤史

昭和47年8月3日生。
高岡市伏木出身。
一番嬉しいのは、お客さんが結婚したという報告。小矢部は第二のふるさとです。

■The Hair Oz

住所 小矢部市綾子3882
ロイヤルハイツA棟1F
電話 07661509484
営業時間 平日9:00-19:00
土日8:30-19:00
定休日 毎週月、第1・第3日曜